
ドラえもん のび太のバイオハザード イレギュラーな者たち

ゼクセル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもん のび太のバイオハザード イレギュラーな者たち

【Nコード】

N9652Y

【作者名】

ゼクセル

【あらすじ】

突然現れた黒いコートの男を追いかけたら、異世界へと飛んでしまった星也。しかし、運悪くゾンビだらけの街にきてしまったのだ。果たして星也はこの街を脱出することが出来るのか！？ちなみに、この作品は僕のデビュー作です。そして、文才0です。超駄文です。だから、暇で死んでしまうときにでも読んでいただけたら光栄です。あと、この作品はマイナーなもの、メジャーなもの、コラボするかもしれませんが。コラボすると超駄文がさらに酷くなる可能性大です。その時はなるべく温かい目で見てください。

第1話 異世界（前書き）

初投稿です。 よろしくお願いします。

第1話 異世界

皆さん、こんにちは。僕の名前は才川星也です。まあ、自己紹介はこれくらいにさせてもらいます。え、なぜかって？なぜなら、現在暴徒化した民間人に追いかけていますから。まるでホラー映画やホラーゲームにでてきそうなものです。そもそも、なぜこうなってしまったのでしょうか？少し時間をさかのぼって見ましょう。

確か、僕は夏なのに真っ黒なコートを着ている男を怪しいと思い追いかけてました。そして、その後その男は……そうだ！黒い渦を空間に作り出してその中に入っていたんだ！僕はその中に興味本位で入って……気がついたら此処にいたんです。それで、あの暴徒化した民間人が出てきて襲いかかってきたから逃げて……現在に至ります。

星也「畜生——！どうなってるんだこの街——！？」

星也は声が街中に響いた気がした。

第1話 異世界（後書き）

意見、感想お待ちしております！

第2話 倉庫（前書き）

今回もよろしくお願いします。 星也の能力がほんの少し出てきます。

第2話 倉庫

ずっと逃げてるのが嫌になった星也は倉庫らしきところへ隠れるようにして入った。

星也「とりあえず必要になりそうなものを探しましょう。」

星也は倉庫の探を始めた。すると、

星也「これは…ハンドガン！？しかも外国産のブラックテイルだ。どうしてこういったものが…？」

星也は日本にあるはずのない外国産の銃を見つけ、驚いている。なぜあるのか疑問に思ったが、

星也「ま、いいか。この状況では持っていたほうがいい気がします。」星也はとりあえずハンドガンのことについて考えるのをやめた。

結局、その後はハンドガンの弾、非常食もちろんのこと、ゾンビ（今の星也にとつての暴徒化した民間人）のお出迎えである。

星也「人は殺したくないが…仕方がない！正当防衛です！」

そう言つてどこから出したのか手には刃のついた銀と赤色のチャクラムが握られていた。そして、星也はそれを持ってゾンビ達にむかつていくのであった。

第2話 倉庫（後書き）

次回は星也のプロフィールです。引き続き意見、感想お待ちしております。

主人公紹介（前書き）

星也のプロフィールです。少し修正しました。

主人公紹介

才川 星也 さいかわ せいや

身長 172cm

体重 55kg

年齢 16歳

性別 男

性格 ・ 冷静

・ 照れ屋

・ 他人第一

・ 時々腹黒い

誕生日 12月25日

好きなもの

・ アイスcream

・ お菓子（主にチョコやキャラメルといった甘いもの）

・ 天体観測

・ 他人を大事にする人

・ 努力する人

嫌いなもの

・ 生cream

・ なすび

・ ぎんなん

・ 他人を大事にしない人

この作品の主人公。常に冷静沈着で仲間思いだが他人を大事にしない者だと相手をゴミと同じような扱いになる。ある事情で0〜6歳の記憶を失っている。恋愛にとっても鈍感。身軽で味方も敵み翻弄する動きが得意。近接系の武器ならなんでも使える。

能力

・自由にチャクラム（キングダムハーツ？のアクセルと同じもの）を出したり、消せたりできる。

もう一つ能力があるがまだストーリーにでてきていないため秘密です。

主人公紹介（後書き）

引き続き意見、感想お待ちしております。

第3話 野比のび太（前書き）

原作主人公登場です。そして、オマケ… やっちゃんいました。ま、そういうキャラにする方針なのでお許しを。

第3話 野比のび太

5分後10体くらいいたゾンビを一掃していた。

星也「なんか…肉が腐ってる？本当に生きている人間だったのか…」

星也はゾンビの死体を見て思った。…てか今更？

星也「……どこに行けばいいのだろうか？」

星也はどうするか考えた。そして、1つの結論にたどり着いた。

星也「……避難所を探そう。」

そう言ったのはいいがどこに行けばいいか分からない星也。迷ったそのとき、

ギイイイイ

後ろの倉庫の扉が開いた音がした。星也は軽く跳び、倉庫の扉と距離をとった。しかし、いたのはゾンビではなく

星也「…生存者か。」

そう言っただけでチャクラムを下げ、消した。

？「生存者ですか。あの…一緒に行動しませんか？」

頼んできたのは黄色の服を着ていてメガネをかけた小学生くらいの男の子だ。

星也「別に構いません。ところで、どこへ行くこうとしていたのですか？」

？「(年下に敬語?)えっと…避難所になっっている小学校です。」

その言葉を聞いてラッキーと星也は思った。避難所を探す問題が解決できたからだ。

星也「分かりました。では同行させてもらいます。」

星也はそう言った。

？「あの…お名前は？」

星也「僕？僕は才川星也。星也と呼んで貰えたら光栄です。」

？「僕の名前は野比のび太です。」

お互いの自己紹介が終わり、小学校へ歩いていった。

オマケ

あれ、ここどこ？どうしてこんな火事になってる家の前で寝ていた？なんだあれ？ええ！？ゾンビ！？

な、なんで現実！？わ、わぁ！力、カラスまで！？と、とにかく逃げよう。あと、言っておくことが、

「上から来るぞ！きをつけろ！」

そう言っただけは走った。風となつて……

第3話 野比のび太（後書き）

次回オリキャラクター人、コンピュータゲーム『怪異症候群』から一人出します。『怪異症候群』が分からない方は少し調べてみてください。さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9652y/>

ドラえもん のび太のバイオハザード イレギュラーな者たち

2011年11月30日20時16分発行